A. 主な動き

1. 内政

ティモシェンコ前首相に関する動き

・5日、カルパチョヴァ最高会議前オンブズパーソンは、同日、国家保安庁職員による最高会議前オンブズパーソン事務所の家宅捜査が実施された旨声明を發出。同日、「バチキフシナ」党は、同捜査はカルパチョヴァ前オンブズパーソンがティモシェンコ前首相の痣の写真を公開したことに対する政権による報復行為である旨の非難声明を發出。一方、同日、国家保安庁は、同庁はかかる捜査行為には関与していない旨反論。

・6日、ブルクハルター・スイス外相は、EUとウクライナが望むならば、スイスはティモシェンコ前首相に関する問題における両者の仲介役を引き受ける用意があるとし、治療を目的とした同前首相のスイスへの受け入れの用意がある旨発言。

・7日、ティモシェンコ前首相は、各民主国家にウクライナ民主勢力への支援を依頼すると共に、ハンガーストライキを継続している同前首相支持者に同行為を中止するよう呼びかける旨の声明を發出。

・9日、国家刑務所管理庁は、ティモシェンコ前首相がハルキフ市カチャニフスク刑務所からハルキフ市国鉄中央病院に入院治療のため移送された旨、また同前首相はベルリンの大学付属病院「シャリテ」のハルムズ医師とウクライナの医師団による治療を受けることに同意した旨発表。

・同日、ハルムズ医師は、ティモシェンコ前首相の診察を実施。同前首相の治療には一定の時間が必要であるとの見方を提示し、治療計画を作成した旨発言。また、同医師は、同前首相がハンガーストライキの状況から徐々に抜け出すための食生活に言及。

・9日、クジミン第一副検事総長は、欧州議会における会議において、ティモシェンコ前首相の問題に関し民主主義の原則に違反があった旨発言。同副検事総長は、1961年に採択された刑事訴訟法のいくつかの規定が欧州基準に適合していないのが理由と釈明。

・11日、ヴラセンコ・ティモシェンコ前首相弁護人は、「シャリテ」に対する治療費は国家ではなく同前首相の家族が支払うことになる旨発言。

その他

・8日、キエフ市控訴裁判所は、ルツェンコ前内相に対する2月27日付キエフ市ペチェルスク地区裁判所の有罪判決を不服とした同前内相による控訴の予備審理を実施し、同前内相弁護団による捜査再開請求を棄却。同裁判所は、次回審理を15日に行なう旨発表。

2. 経済

マクロ経済

・7日、国家統計局は、GDP成長率について、2011年第4四半期の4.7%に対して、2012年第1四半期は1.8%にスローダウンした旨報告。

財政・金融

・7日、中央銀行は、4月に外貨準備高が1.7%増加し、2012年4月30日時点で、316.6億ドルに達した旨報告。

・8日、ドゥビフウィスト中央銀行外貨市場オペレーション局長は、4月の国内の外貨購入額は売却額を2億900万ドル上回った旨(3月の同値は5億4,400万ドル)、また、4月は外国為替市場の介入を行わなかった旨報告。

・8日、中央銀行は、ウクライナで利益を上げられなかった銀行が本年の第1四半期に半減し、15銀行で計3.16億フリヴニャの赤字を計上したが、159銀行においては、計20億フリヴニャの黒字を示した旨報告(3月末時点で国内174銀行が操業)。

その他

・10日、キエフ・ジュリアニ空港公団は、17日に新旅客ターミナルを開設する計画であり、今後、発着の頻度が増加する旨発表。同空港はキエフ市内にあり、敷地面積265ヘクタール、滑走路は長さ2310メートル、幅45メートルであり、新ターミナル開設後は一時間当たり300人の乗客が運搬可能。

3. 外政

中欧サミットの延期

・8日、ディクサーロフ外務省報道官は、11、12両日ヤルタで開催予定であった第18回中欧サミットに参加予定国の元首が様々な理由で欠席を表明したため、ウクライナ外務省が右サミットの開催延期を決定、開催時期は追って外交ルートを通じて周知する旨発表。

・9日、コモロフスキ・ポーランド大統領は、中欧サミットの延期を受け、ポーランドはウクライナの欧州統合を支持するとして、ウクライナに対し時代錯誤的法律规定を削除するための措置を講じることを要請し、同時に、サッカー欧州選手権に対するボイコットに反対する旨の声明を發出。

グリボウスカイト・リトアニア大統領の来訪

・11日、グリボウスカイト・リトアニア大統領は、ハルキフを訪問し、ハルキフ州知事、ハルキフ市長等と会談の後、国鉄中央病院を訪問しティモシェンコ前首相と面会。面会后、同大統領は、同前首相の治療への独医師の参加決定を評価した一方、欧州のウクライナに対する信頼は低下しているとし、

ウクライナの欧州統合の展望はティモシェンコ前首相及び他の野党リーダーへの対応、人権の尊重及び国内の改革の実施等次第であり、ウクライナの欧州接近か孤立かは政権に大きく左右されるとする考えを表明。

・同日、グリボウスカイト大統領は、キエフにおいてヤヌコーヴィチ大統領と会談し、ウクライナの欧州統合への展望に関し協議。会談後、グリボウスカイト大統領は、ティモシェンコ前首相との面会実現は本訪問の成果であるとし、収監されている野党指導者に対する対応に改善がなければ、ウクライナの欧州からの孤立は避けられない旨発言。

ティモフティ・モルドバ大統領の来訪

・11日、ティモフティ・モルドバ大統領は、ウクライナを訪問し、ヤヌコーヴィチ大統領と会談。ヤヌコーヴィチ大統領は、ティモフティ大統領就任に対する祝意を伝達した上で、欧州統合はウクライナ・モルドバ協力関係における重要な課題である旨、また、両国間の貿易額が現在の10億ドルから更に増加することを期待する旨述べた。これに対し、ティモフティ大統領は、沿ドニエプル紛争解決に向けたウクライナの支援に対し謝意を表明し、ウクライナとモルドバの欧州統合の立場は一致している旨述べた。

・同日、ティモフティ大統領は、アザーロフ首相と会談し、沿ドニエプル問題に関し協議。ティモフティ大統領は、本問題解決のためのウクライナの支援に感謝の意を表明の上、沿ドニエプル地域に軍隊が駐留することで住民の地域間の移動が阻害され、また、地域の不安定化要因となっている旨指摘。これに対し、アザーロフ首相は、本問題解決へ今後も協力することを約束。また、両者は、更に、両国の経済協力問題に関し協議。

アザーロフ首相のカタール訪問

・8日、アザーロフ首相は、カタールを訪問し、ハマド・ビン・ジャーシム首相兼外相との会談において、オデッサ州のLNGターミナル建設、ウクライナ国内の原油及びガス採掘事業へのカタールの参加及びカタール国内にウクライナ産穀

物をペルシア湾地域に輸出するためのハブ倉庫建設等を提案。これに対し、同首相兼外相は、エネルギー分野における両国間協力の展望は明るく、本提案の実現に向け交渉を開始する旨述べ、カタール国内消費向け大麦のウクライナ国内での栽培への投資に関心がある旨発言。会談後、エネルギー及び教育等の分野における二国間協力に関する覚書への調印式を実施。

・同日、アザーロフ首相は、「ラスガス(RasGas)」社を訪問し、ウクライナはカタールからの液化ガスの購入の可能性を検討している旨発言。

・9日、アザーロフ首相は、ハマド首長と会談し、両国間戦略的パートナーシップ協定計画及びアフリカにおける鉄道建設等の共同計画に関し協議。ハマド首長は、サッカー欧州選手権のためウクライナを訪問する意向である旨発言。

欧州サッカー選手権に関する各国対応に対するウクライナの反応

・7日、アザーロフ首相は、一部欧州諸国からのサッカー選手権観戦のボイコットの動きはウクライナ国民に対する侮辱である旨発言。

・10日、ウクライナ外務省は、ポーランドは欧州サッカー選手権ボイコットに反対するとして9日付コモロフスキ・ポーランド大統領声明に対し感謝し、サッカーファンは本選手権の政治化を望んではないとする旨の声明を発表。

その他

・11日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ウクライナ側のEUとの連合協定及び自由貿易協定に向けた準備は整っている旨、また、現在EU側により提案されている本交渉の一時中断も今後双方にとり有益なものとなるであろう旨発言。

4 . 防衛

・9日、ヤヌコーヴィチ大統領は、キエフで開催された戦勝記念日の式典に出席、退役軍人及び戦死者に敬意を表すとともに、国の主権、安定性及び平和を維持するためにあらゆる努力を傾注する旨発言。

(了)